ことばの重み

鷗外の謎を解く漢語

小島憲之
kojima noriyuki

講
学術

ことばの重み

鳴外の謎を解く漢詩

小島憲之

常州大学図書館
藏書章

講談社学術文庫

小島憲之（こじま　のりゆき）

1913～1998。京都帝国大学文学部卒業。大阪市立大学教授を務めたのち，大阪市立大学名誉教授。国文学者。専攻は上代文学。著書に『上代日本文学と中国文学』『國風暗黒時代の文学』『古今集以前』『萬葉以前』『日本文学における漢語表現』『漢語逍遙』，共編著に『萬葉集研究』『萬葉集』『王朝漢詩選』『古今和歌集』『日本書紀』などがある。

講談社学術文庫

定価はカバーに表示してあります。

ことばの重（おも）み　鷗外（おうがい）の謎（なぞ）を解（と）く漢語（かんご）

小島憲之（こじまのりゆき）

2011年2月9日　第1刷発行

発行者　鈴木　哲

発行所　株式会社講談社

東京都文京区音羽2-12-21 〒112-8001

電話　編集部（03）5395-3512

販売部（03）5395-5817

業務部（03）5395-3615

装　幀　蟹江征治

印　刷　株式会社廣済堂

製　本　株式会社国宝社

本文データ制作　講談社プリプレス管理部

© Yoko Kojima　2011　Printed in Japan

落丁本・乱丁本は，購入書店名を明記のうえ，小社業務部宛にお送りください。送料小社負担にてお取替えします。なお，この本についてのお問い合わせは学術図書第一出版部学術文庫宛にお願いいたします。

本書のコピー，スキャン，デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。Ⓡ〈日本複写権センター委託出版物〉

ISBN978-4-06-292039-1

目次

ことばの重み

第一「赤野」『航西日記』にみる鷗外の〝剽窃〟……9
なぜ「赤ちゃん」なのか　「童山赤野」のアデン港
先輩成島柳北たちの日記　『米欧回覧実記』まで　東京『久米美術館』にて　『米欧回覧実記』との検証
剽窃か本歌取りか　『舞姫』作者の心のうち
第二「望断」それは誤読の発見に始まった……39
明治の空、そして独楽　漢語と和製の漢語　ルードイッヒ二世と新白鳥城　誤読――わたし自身の場合　どこまでが瑣末なのか
第三「繁華」青森の花柳の巷はいつ焼けたか……66
青年徴兵副医官の旅　新潟七十二橋の夢　漢和辞典の丸かじり　十月三日と「火後」
第四「青一髪」東の詩人頼山陽と西のワーグナー楽劇……87
鷗外読書圏の中国詩人　出典――果てしない広野の小径
柳北を経て蘇軾の詩へ　ワーグナーの「青いひとすじ」

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com

合唱曲『鑑真和上東征賦』

第五「易北（エルベ）」『独逸日記』、魂（たましい）飛ぶ先の女性たち……109
誤読が〝通説〟となったとき　「珊蔦尼（サントニン）」の命名者鷗外
ドレスデンの「童貞女（マドンナ）」　日本人留学生とドイツ女性

第六「妃嬪（ひひん）」ベルリン七首と碧灯車上の客……132
百年後の東ベルリン訪問記　実体験と竹枝（ちくし）歌のあや
「試衣娘子（ファッション・モデル）」のむかしいま　牡丹の淡白にも「冷淡」の表現

第七「涙門（るいもん）」舞姫エリス、『還東日乗』の虚実像……162
帰国の旅の鷗外と石黒忠悳　「相遇」を深読みした誤り
長崎好眺（ベル）楼の娘たち

第八「葫蘆（ころ）」わたしを悩ませた『小倉日記』の語群……180
左遷の日記、その耳学問と実際　中国「近世語」との最初の出会い　水滸伝より牡丹灯籠まで

第九「春(うすつ)く」『うた日記』のあや――万葉語と漢詩語……197
なぜ「うた」なのか　野戦宿舎の『万葉集』　「死(しに)の使(つかひ)」という一語の背景　鷗外脳中の『詩経』のことば
絶句した軍令部次長
第十「暗(あん)愁(しゅう)」　大正天皇詩集とハルピン駅頭の伊藤博文……223
「暗黒」と「暗殺」との距離　「影の薄い天子様」の一大詩集　博文、森槐南そして安重根　「暗愁」――漱石の用例まで
第十一「今(こん)夕(せき)」　ことばは揺れる――失われた明治の詩嚢……245
青年期と晩年の用例の移り　女子大生の正答率は一四%
「今夕は何の夕ぞ」
補記……268
あとがき……270
解説……内田賢徳……275

ことばの重み

鷗外の謎を解く漢語

小島憲之

講談社学術文庫

目次

ことばの重み

第一「赤野」『航西日記』にみる鷗外の〝剽窃〟……9
なぜ「赤ちゃん」なのか　「童山赤野」のアデン港
先輩成島柳北たちの日記　『米欧回覧実記』まで　東京『久米美術館』にて　『米欧回覧実記』との検証
剽窃か本歌取りか　『舞姫』作者の心のうち
第二「望断」それは誤読の発見に始まった……39
明治の空、そして独楽　漢語と和製の漢語　ルードイッヒ二世と新白鳥城　誤読――わたし自身の場合　どこまでが瑣末なのか
第三「繁華」青森の花柳の巷はいつ焼けたか……66
青年徴兵副医官の旅　新潟七十二橋の夢　漢和辞典の丸かじり　十月三日と「火後」
第四「青一髪」東の詩人頼山陽と西のワーグナー楽劇……87
鷗外読書圏の中国詩人　出典――果てしない広野の小径
柳北を経て蘇軾の詩へ　ワーグナーの「青いひとすじ」

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com

合唱曲『鑑真和上東征賦』

第五「易北（エルベ）」『独逸日記』、魂（たましい）飛ぶ先の女性たち……109
誤読が〝通説〟となったとき　「珊蔦尼（サントニン）」の命名者鷗外
ドレスデンの「童貞女（マドンナ）」　日本人留学生とドイツ女性

第六「妃嬪（ひひん）」ベルリン七首と碧灯車上の客……132
百年後の東ベルリン訪問記　実体験と竹枝（ちくし）歌のあや
「試衣娘子（ファッション・モデル）」のむかしいま　牡丹の淡白にも「冷淡」の表現

第七「涙門（るいもん）」舞姫エリス、『還東日乗』の虚実像……162
帰国の旅の鷗外と石黒忠悳　「相遇」を深読みした誤り
長崎好眺（ベル）楼の娘たち

第八「葫蘆（ころ）」わたしを悩ませた『小倉日記』の語群……180
左遷の日記、その耳学問と実際　中国「近世語」との最初の出会い　水滸伝より牡丹灯籠まで

第九「春(うすつ)く」『うた日記』のあや――万葉語と漢詩語……197
なぜ「うた」なのか　野戦宿舎の『万葉集』　「死(しに)の使(つかひ)」という一語の背景　鷗外脳中の『詩経』のことば
絶句した軍令部次長
第十「暗(あん)愁(しゅう)」　大正天皇詩集とハルピン駅頭の伊藤博文……223
「暗黒」と「暗殺」との距離　「影の薄い天子様」の一大詩集　博文、森槐南そして安重根　「暗愁」――漱石の用例まで
第十一「今(こん)夕(せき)」　ことばは揺れる――失われた明治の詩嚢……245
青年期と晩年の用例の移り　女子大生の正答率は一四%
「今夕は何の夕ぞ」
補記……268
あとがき……270
解説……内田賢徳……275

ことばの重み

鷗外の謎を解く漢語

第一　「赤野（せきや）」

『航西日記』にみる鷗外の〝剽窃〟

なぜ「赤ちゃん」なのか

一語の持つ重みということについて書き綴ってゆこうと思う。

日本上代文学と中国文学との関わりについて、その一語一語の「語性」――語の性格――を見定めることを、わたしは自らの学問の基礎としてきた。そのわたしが標的（ターゲット）を、明治のことば――とりわけ森鷗外の使った漢語、漢詩語に絞ったのはなぜか。とりたてて異例に属することでもあるまいとわたしは考えているが、そのことも、章を追うごとに、明らかになってゆけばよいと思う。

話題を「赤」という漢字のことから始めよう。

「赤ちゃん」「赤ん坊」は、新生児や乳児を指すことばである。何をわかりきったことを、と言われそうだが、多年、文化をその背に荷い続けてきたひとつの表意文字、その文字によってつくられた語、語句には、にわかには測りがたいほどの重みがある。なぜ新生児が「赤ちゃん」かといえば、産ぶ声高らかにこの世に生を享けた児の、その肌の色の赤々としてい

ることによるであろう。たしかに、中国の古典、しかもわが上代の官吏登用試験のための必読書ともなっていた『書経』（尚書）の注の、そのまた注にも――これを疏という――、「子生ルルトキ赤色、故ニ赤子ト言フ」とある。しかし「赤」は、わたしにとっては、そう簡単に通りすぎるわけにはゆかない文字である。ひどい栄養失調のため、終戦後半年以上も田舎に疎開していたわたしの、愛読書としてカードまでも作った書物は、中国の歴史書『漢書』であった。唐の太宗のもと、そのすぐれた注を作った名高い学者顔師古は、こういっている、「赤子ハ、其ノ新生イマダ眉髪有ラズ、其ノ色赤キヲ言フ」と。赤子についての、中国の学者によるこの二つの古典的な注は、似てはいるものの、必ずしも同じではない。後者が「眉毛も髪もまだ生えない状態で」とつけ加えている点が重要である。

「赤」には、色彩の赤と、なにも持たない、あるいは、まるはだかのという、大きく分けて二つの意味がある。素寒貧の意の「赤貧」、徒手のままで何も手にしていない「赤手」、すあしのことを「赤脚」というなど、いずれも後者の意で用いられることばである。このうち、「赤手」については、鷗外自身が、『航西日記』すなわち西方への船旅の日記に続く『独逸日記』のなかに、ドイツ製の酸漿提灯の不細工さをわらって、「蓋し器械の用盛なる国にては、赤手にて物を製することは段々拙くなるものなり」（明治十八年七月二十七日）という使い方をしている。それらの「赤」は、緑の山に対して赤禿の山と表現する例のように、「眉も髪も生えそろわない、不毛の、むきだしの、はだかの状態」を意味している。

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com